

火曜会通信

2008(H20)・5・01 発行

伊丹市千僧 1-1 伊丹市教育委員会事務局内

新年度を向かえて

会長 池田利男

文化財ボランティア活動は手作りの創意工夫で楽しくやりましょう。

平成19年度第13期ボランティア養成講座修了の会員の皆さん、ご入会を心より歓迎致します。伊丹市文化財ボランティアの会も益々会員が増え、57名の大所帯となりました。同好の仲間が増え喜ばしい限りです。火曜会の内の分科会も増え、①古文書に親しむ会 ②パソコンに親しむ会 ③紙芝居・ペープサート出演のどんぐり座 ④行基をもっと知ろう会

各分科会共、資料は手作り、各イベントも手作り、各位の知恵の持ち寄りによる手作りオンパレードです。

会員各位の多忙な内、岡田家酒蔵のガイド、史跡めぐりガイド、学校外活動の援助等々。

会の目的である、文化財を愛し勉強してその成果を市民の皆さんに還元する事を生涯学習としています。日々をみんなで楽しくやりましょう。

下記は去る2月4日伊丹小学校での台柿植樹と紙芝居”台柿”上演時の朝日新聞記事(3月13日朝刊阪神版・兵庫県内各地方版掲載)の転記再録したものです。(写真省略)

手製紙芝居で 文化財を紹介

「伊丹市文化財ボランティアの会」が文化財にちなんで手作りし、老人ホームや小学校で上演している紙芝居が人気だ。会長の池田利男さん(75)は「民話を新発見することもある。作品をもっと増やしていきたい」と意気盛んだ。

同会は市教委主催の文化財ガイド養成講座の受講者で96年に結

成された。会員は現在60～78歳の52人。国の重要文化財の旧岡田家酒蔵に詰めて観光客や小学生に説明し、市内の文化財を歩くコースのガイドをしている。

「絵にした方が伝えやすい」と2年前に紙芝居を始めた。江戸時代の儒学者頼山陽が、伊丹で食べた柿のおいしさに驚いた故事や地域の民話など9作品がある。「芝居の後、お茶を飲みながらの交流も楽しみ」という。

新年度を迎えて 4 月第 2 週の火曜日、4 月定例会を兼ねて平成 20 年度総会を例年どおり開催した。会発足当初から 4 月第 2 週火曜日は総会と定着して 13 年、会の別名を『火曜会』と称する由縁でもある。今年度は新入会 10 人を迎える 1 方、旧メンバーの休・退会もあったが、総員 57 名となった。13 年の歴史・伝統も考えつつ、ここ数年の新入会者の声も勘案しつつ、又会則も見つつ総会運営にも若干考慮したつもり。企業の総会やマンション・自治会の総会でもなく、会則は尊重しつつ反面それだけに縛られるのも窮屈さを感じつつ会の運営はむづかしいもの、老人集団につきものの、エゴ・我がまま・わが道を行く・・・がないではない。そう言う自分も反省しつつ、周囲に気をつかう毎日である。

総会は会長の開会挨拶から始まり、新しく着任された教育委員会、生涯学習部埜村次長から日頃の協力感謝、今後も協力要請と励ましの言葉を頂戴した。旧年度の各行事の報告、会計報告、監査報告とほぼ順当に進行と思いきや少し長くなったか？

新年度活動計画では、昨今の一般または市の全文化財・歴史に対する、考え方や扱ひ方・接し方の変化を感じつつ、我々のこれまでの伝統的対応、イベント対応に何らかの配慮の必要性を感じるのは考え過ぎか。タイアップ事業も一応のけじめの 3 年目を迎える。もう 1 年実施の方向の承認を得て大きな期待をもちつつ、それらを含めた予算も可決された。

新入会者紹介は当日出席者の紹介を行った。4 月定例会は時間切れで緊急用件のみの伝達にとどめた。5 月には恒例の春のバス旅行がある。見聞を広める好機、ボランティアの身、ながーく楽しくやりたいものである。

【旧吹田村界限散策とアサヒビール工場見学】 土日 G：細川 勝海

去る 2 月 26 日、土日グループ主催の屋外研修会が吹田市で開催されました。さて、当日は下見同様の雨模様となり、おまけに JR 宝塚線が大幅に遅れていた為、来た電車に全員飛び乗って、何とか尼崎駅で所定の電車に乗ることが出来ました。当日不参加の方を除いて 22 名でのドタバタ出発ではありましたが、吹田に着いた頃には小雨となり、道中では傘をたたんで歩く事が出来ました。散策にはボランティアガイドの“吹田まち案内人”の方 3 名にお願いしました。ガイドの方の手回しの良さにも驚きましたが、行基菩薩が創建した常光円満寺では、お寺の奥様が一般には開放されていない箇所まで案内して頂き、入り口では想像もつかなかった奥行きや秘蔵の涅槃像まで見学させて貰って感謝感激でした。文化創造交流館である旧西尾家は、和洋折衷の建物と言ひ、広い庭と言ひ、凄かったですね！又、同じ庄屋で江戸時代の建物である浜屋敷（吹田文化まちづくりセンター）では、多くのガイド関係者の方々に迎えられ、親切で暖か味のあるガイドをして頂きました。ここで昼食を摂ったあと、高浜神社や泉殿宮を廻ってアサヒビール工場の見学となる訳ですが、泉殿宮の宮司さんは、これ又、若くて親切な方で、わざわざ伊丹市文化財ボランティアの会様と書き込んだパンフレットを配布してくれ、お父さんが伊丹の猪名野神社の宮司をしていたとか！面白・可笑しく説明して頂きました。そこから 5 分程で、アサヒビールの工場に到着、寒い冬場でのビール工場見学にも関わらず、皆さん熱心に見学されていました。吹田は、東海道からも少し離れ、宿場町としては余り見るべきものが無いのかなと思っていましたが、中々どうして、結構色んな文化財も有り、参加の皆さんからも穴場に来たね！と喜ばれました。その上、何分、土日のメンバーは、呑み助の集団とも言われるとおりに、研修と言えど、アルコールは付物、参加者の皆さんには、しっかりとただのビールを振舞わせていただきました！

3月上旬に愛媛県松山・道後に旅行に行きました。土産話は、女性の登場する逸話2題です。

重要文化財 松山城築城工事の逸話

築城に際し、まず本丸の位置が決定され、石塁の完成に全力が集中された。この時使用された石材は、付近の産地から産出したものも少なくなかったが、すでに廃城となっていた湯築城及び正木城から運搬されたものも多かった。この運搬に際して次のような逸話がある。正木地域から魚類を行商する婦人をおたたと呼んだ。このおたたが、嘉明の命を受け小砂を入れた桶を頭に乘せて正木から松山へ持ち運んだ。このために、この桶を御用櫃と称するようになり、また嘉明の夫人が握り飯を配り人々の労をねぎらったという。

その後、工事が進み瓦を山上に運ぶ頃、工事が停滞したため、足立重信は近郷の農民を動員して三方から人垣を作らせ、手ぐり渡しにして一夜の間にその全部を運ばせ、嘉明を驚かせたと伝えられる。

伝説・松山の昔話 「鳴かない蛙 (二之丸堀)」

城主の蒲生忠知さまは、今朝も暗い気持ちでお目覚めだった。城内には暗雲がみなぎっていて、夜は女の泣き声にうなされる。それは、跡継ぎのないお殿様には、「御家断絶」という厳しい定めがあった時のことだから、もう普通では考えられんほど、異常になってしもとったんじゃろ。領内の赤ちゃんのできる人を見れば、お城へさらってきたので、領内の女たちは、恐れて外へも出られなんだ。

ところが、とうとう奥方に子供が生まれるようになった。それがわかった時には、お殿様のお顔がいつぱんに晴れ晴れとなり、お誕生の日を待ちわび、喜びは、もう大そうなものだった。お生まれになったのは、男のお子で、おかわいがりになる様子は相当なもので、大切に育てていらっしやっただのに、以前さらわれた女の人のうちのうらみのためか、この子はものが言えない子に生まれついた。

お喜びが大きかっただけに、その悲しみは相当なものだった。

その頃は夏の初めで、堀の蛙が、ガーガー鳴きたてた。いらだったお殿様は、高い櫓の上からお堀めがけて、「やかましい、城主の子さえものが言えんのに、蛙のくせにガーガーやかましいぞ。黙らんと堀をさらえて皆殺しにするぞ。」と叫んだと。

それ以来、お堀の蛙はびっくりしてなかんようになったということよ。



仏教伝来と神仏習合

仏教が正式に伝来したのは、欽明天皇7年、538年と考えられている。それまで大和政権を支える宗教は、神祇信仰・祭祀であった。したがって、大王はじめ各氏族は仏法受容に悩むところとなる。大臣の蘇我稲目は受容に賛成したが、大連の物部尾輿や連の中臣鎌子は反対した。仏法伝来を端緒に約50年にわたる崇仏・排仏の論争と抗争が展開された。蘇我氏が勝利することにより、仏教は蘇我氏を中心とする氏族（豪族）の間で受容されていった。日本の仏教は「氏族仏教」として、寺院もまた氏族の造る「氏寺」として始まった。大化の改新後、孝徳天皇は、仏法興隆を宣言し、各氏族の寺院建立にも財政的技術的援助を約束した。天皇は各氏族に任されていた寺院運営をも担うこととなった。これらの一連の施策は、旧来蘇我氏主導とはいえ各氏族が個々に担っていた仏教を天皇が一元的に管理・運営するという仏教政策の大転換であり、古代仏教の根幹をなす国家仏教体制に向けて明確な一歩を踏み出すものであった。7世紀後半、天武天皇は、「金光明経」、「仁王経」、「法華経」など鎮護国家の経典を重視し、公的な立場で仏教を受容した。つまり、仏教は律令国家の中に組み入れられ、国家仏教として成立し、神仏は同格となった。仏教受容は現象的には以上のように推移したが、仏教受容に対して王権や豪族の精神構造はどのように推移したのであろうか。義江氏の説くところを見ることにする（義江彰夫「神仏習合」）。

王権の全国支配も、豪族の地方支配も、地方の村々の結合も、呪術的で共同体的な神祇祭祀という点では共通しており、上位の権力は配下の社会の呪術的で共同体的な統合を、より強大な呪力で統括していたと考えられる。この支配と社会統合を支える宗教は、呪術的で共同体的な神祇祭祀という点で、ひとしく来世や個人の罪業の意識をもっていない。しかし、時が経つにつれ、王権も仏教の本質を知るようになり、王統が一系化して安定期に入った欽明以降になると、みずからの権力の支えとして中国・朝鮮から摂取した儒教文明に触発されて、みずからを大和の国の全てを支配し所有する世俗的な王権であると認識するにいたった。大王や王権中枢部にある人々は所有と支配の欲望とそこから生まれる罪業の数々をも知ることとなる。この苦業を克服するために、積極的に仏教を取り入れ、官立・私立を問わず寺院を建て、多くの僧を養成した。繰返すと、王権と官僚貴族は、ひろく神と共同体の名を借りて私的に土地を所有し、人々を支配していることに気付き、それゆえにその手段となっている神の告げというかたちで、神々の名をかたって罪業の数々を告白し、神々を菩薩にさせ、そのための伽藍すなわち神宮寺を立てる方向に動き出す。王権擁護のレベルでは、地方社会に先んじ、奈良時代はじめてから神宮寺が形成された（越前氣比神宮、宇佐八幡宮、伊勢神宮など）。

地方社会においては、奈良時代に入っても、庶民層はもちろん豪族層においても呪術的な共同体的神祇信仰と祭祀に呪縛されていた。律令国家がそれなりに安定的に社会を統合・支配して、村々の生産力が上がってくると、村長や富農などは一層富を蓄積してゆく。これらの富農層（豪族）は神祇祭祀を司る者としての立場を利用して私富の蓄積を行い、本来の共同体的神祇祭祀の立場からかけ離れてゆく。この神に背き、村人を支配するという罪の意識を克服するために、仏教に帰依したのである。雑密を身につけ遊行する僧侶たちが、地方豪族たちの苦悩を救うために、彼らを神宮寺建立に導いていった。神は神であること自体を宿業として苦悩している。苦悩する

神は仏の力を借りて救われたいと望んだのである(神身離脱思想)。満願禪師による多度神宮寺や常陸国鹿島神宮寺の建立がよい例である。ここに神仏習合思想が形となって現れたのである。

行基の造仏と霊木化現仏いぼくげんぶつ

一般民衆は、仏教祭祀を見ることもなく、仏教教義についても知ることもなかった。7世紀後半から奈良時代にかけて、中国の道教の神仙思想に影響を受けながら、仏教徒の山岳修行が盛んになっていった。仏教徒が山岳に入って厳しい修行を行う目的は、仏教經典に基づいて修行を重ね、その結果として仏教的呪力を体得することにある。仏教徒による山岳修行は官僧だけでなく、優姿塞・禪師などと呼ばれる民間の修行者によっても行われ、むしろこちらの方が主流で、量的にも圧倒的多数であった。彼らは山に鎮まる神々や諸霊を祈り祀って、自らの修行を成就していった。この山岳修行を通じて、神仏の接近はおろか、極めて自然な形で、どの面より先んじて神仏習合の端緒を開いていった。これらの民間の修行者たちは入山修行と地方修行を繰返すこととなり、祈祷や卜占をして人々の要請に応じてきた。次第に伝来の仏教も一般民衆の中に浸透していくことになる。これの修行者としては、自然智宗の唐僧神觀、吉野山子嶋山寺の報恩、白山の泰澄、彦山の法蓮などが知られている。その中でも、行基の布教・社会事業活動は際立った存在である。「続日本紀」に「京に近い山側の山原に、多くの人数を集めて妖言をはき、民衆を惑わしている者がいて、多い時は1万人、少ない時でも数千人が集まる。このようなことは法律に違反するので、放置すれば被害がますます大きくなるから許してはならない」とある(当時の平城京の人口は10万人ほど)。この人物こそ行基以外には考えられない。

行基は、道昭に習って、遊行し作善を行い、民衆に布教した。仏教が我が国に請来された時、人々に受け入れられるためには、既に存在した神道(自然崇拜)と緩和に融合される必要があった。その一つとして、仏教伝来以前から存在した神道で「神木」扱いされた霊木か、天の神様であった雷が落ちた「霹靂木」で、仏像を制作する必要があった。今まで姿が無かった神が霊木の中に姿を現したのである。霊木で製作された仏像だからこそ一般庶民の信仰対象になったと考えられる(神仏習合)。井上正は、霊木の中に仏が姿を現すという特異な思想を表現するには、完成一步手前の形象が効果的であったと言う(霊木化現仏説、井上正「7～9世紀の美術、檀像と霊木化現仏」)。「行基が留止る処には皆道場が建つ。その畿内には凡そ四十九処」と「続日本紀」にある。各々の道場(寺院)には仏像も安置されたであろうが、行基の造仏活動に触れている確たる資料は乏しい。井上正によれば、行基伝承を持つ寺院の数は約700を越えるが、そのうち伝承にふさわしい時期すなわち行基が活躍した8世紀前半と考えられる古像は40軀を越え、それらを伝え遺す寺堂は約20余りを数える。近畿地方に多く残る行基仏の特徴は、素木で彩色がなく、異相で、木の生々しさを残し、神像と仏像が同居していることが多い。このような仏像制作は、国家寺院の造仏所での仏像制作とは異なっている。行基は、霊木化現仏を造り布教するとともに、知識結の力を借りて社会事業を進捗させていった。

台柿植樹と紙芝居『台柿』

去る2月4日伊丹小学校で台柿の苗木の植樹が行われた。今後各小学校に順次植樹するとの計画なそうな。

頼山陽絶賛の台柿が市内のあちらこちらでたわわに見られる日を想像するもまた楽しである。DNA 関連科学の進歩もあり、頼山陽が「うまい」という味が引き継がれるのかどうか、疑問も多いが・・・

ところで我々文化財ボランティアの会のどんぐり座、紙芝居 A 班で台柿を取り上げ上演興行中。ある意味これは時代を先取りしたひきまわしと言うのは自我自賛か？歴史をこういう形にする時、事実との狭間でとやかくおっしゃるその道の権威が居られるのは常のこと、所詮その方々もその場に不在のいわば想像の世界。正しいかも知れなく、正しくないかも知れない、狭間でスリルを楽しんでいるのが我々かも・・・その中でより真実に近いところへ近づけることも大事。編曲の妙でもある気がする。

4年目に入り第4作目を各班で製作中。絵も自作、シナリオも自作にややシンドさを感じるこの頃、4作目ができれば12本の演目で出前興行です。頑張りましょっ。



13期文化財ボランティア

養成講座傍観の記

表記の養成講座は本年1月～3月にかけて開催された。受講生は11人とともに12人も・・・最後修了生は11人。うち10人が我々の会に入会され、大歓迎です。受講時・入会後を通じて、皆さんなかなかの勉強家ぞろい、と伺える面々と同時になかなかの個性の持ち主との印象。周囲に気も使いつつ、お互いの心も読み取りながら、自省・自制も必要かも・・・お互いの思いやりで、楽しく活動に励みたいもの、今回は入会後の研修も4月22日実施済み、研修会には新入会者9名、11期生4名、旧OB・OG10名が参加。ブルゾンと帽子の配布から始まり、岡田家の張りつけガイドについての説明、講座最後の史跡めぐりにプラスαの知られざる知識の上乗せに講師の中尾氏もガソリン（酒）切れのなか愉快に最後までこなされました。みなさんお疲れ様でした。

2月3月の定例会での聞いた話から

2月定例会では、岡田家再築時に建築担当課でご苦勞された片岡氏に岡田家再築時の苦勞話を聞いた。

大屋根を支える土間の大柱の秘められた補強の話。県・国を相手の詰めの苦勞話。神棚の変り種の話等。普段知らずに接している岡田家の秘密のような話を聞いた気がした。

3月定例会では、当会の顧問である伊丹氏から郷町について話を聞いた。

これまた、隠れた話のいくつかを聞いた気がした。ご高齢にもかかわらず熱心に語られる話に改めて、伝承の大切さを肝に銘じるきっかけをつかんだ気がする。

小西酒造万歳蔵跡発掘調査現地説明会参加記

4月19日曇り空のなか、又やや強風のなか表記現地説明会が開催された。13時30分からと14時30分からの2回の説明会に多くの人が集まった。いずれも古き昔を覗きむさぼるつわものの集いの感じ。これまでの発掘よりも幾分か深い部分も多く、村重時代の堀、或はいくつもの掘り出された陶器類・スポンの甲羅等、又、古い竈、比較的新しい竈等夢の膨らむ数々にしばし眼を見張るひと時であった。参集者異口同音で遺構・遺物のいい保管・展示を望む声があちこちでささやかれていた。”調査報告の終わり”に、

今回の発掘調査では、万歳蔵より前の18世紀末から酒蔵があったことがわかりました。その酒蔵については、残念なことに古文書などでは該当する酒造家はわかっていません。今後の研究課題です。

調査は今も継続中で、本調査区の詳細はまだわかりませんが、今回検出した堀跡は、第317次調査で検出された2条の堀跡に接続しないと考えられ、さらに、これら堀跡とは規模が異なり、検出長50m以上、幅6.5mにおよぶ大型の堀跡でありました。

これらから町屋地区側にも複数の堀を設けていたこととなります。これは有岡城期の構造を知る上での好資料になると思われます。

とあります。新しい発掘での事実やスカイパークの全面完成に伴う運用等、新年度は新しいものも含めた活動の場も広がりそう・・・

以上4テーマ MG 記



乾
みのり

寒^{かん}垢^{ごり}離^りの紅^{べに}さす肌^{はだ}に月^{つき}新^{あたら}し

結^{むす}い上^あげし鹿^かの子^こ紅^{べに}春^{はる}隣^{りん}

水^{みづ}仙^{せん}や別^{わか}れし女^{むすめ}の衿^{えり}ほのか

日^ひ向^{むか}ぼこほどきし裕^は亡^は母^はのもの

掛^か声^{こゑ}の乱^{みだ}れて楽^{たの}し初^{はつ}芝^{しば}居^い

主な活動記録・今後の予定

ガイド日程・団体・人数

月	日	依頼先	人数
2	7 (木)	神津小学校 3 年生	53
	14 (木)	南小学校 4 年生	154
	17 (日)	郷土同窓会 (伊丹)	9
3	6 (木)	互友会女性部	15
	9 (日)	読売新聞 吟行会	250
	21 (金)	槻歩クラブ	30
	23 (日)	H 2 O 阪神	15
4	11 (金)	自然総研	35
	17 (木)	近鉄友の会	22
	20 (日)	阪急電鉄	4000
5	13 (火)	JR・旅行会社	50
	24 (土)	HSC 伊丹スワンクラブ	15
	30 (金)	さくらんぼ会	35
6	22 (日)	高槻・萩谷女性会	15

幹事会 2/5 3/4 4/1
 定例会 2/12 3/11 4/8
 総会 4/8
 火曜会通信 No.36 2/1 ・ No.37 5/1 発行
 屋外研修 2/26 吹田市へ
 文化財ボランティア養成講座協力
 1/ ~ 3/
 どんぐり座 2/4 伊丹小
 4/16 養護老人施設誕生日会
 春バス旅行 5/13・・・石山寺水口宿方面
 公連協公民館祭り展示参加 5/13～5/18
 古文書・・・第3火 pm スワン H
 PC 教室・・・第2・4 木 pm ラスタ H
 どんぐり座・・・第3火 am スワン H
 行基会・・・別表
 幹事会 毎月第1火 am (5月のみ 5/7(水))
 定例会 毎月第2火 am

編集後記

薫風の5月になりました。ガソリン値上げで足止めを食ったGWごろ寝の人もあるかも・・・ガソリンに限らず諸物価高騰の悪政を早く食い止めねば・・・世界的に喧騒のこの頃。

今号は原稿の集まりが当初悪く、浅く・広くの雑記事を用意中にぼつぼつのテンポで、結果、少し余裕ありの8ページにしました。皆さんにはバス旅行の車中でおてもとに・・・それぞれが記者のつもりで記事原稿よろしくね。

今年オリンピック年、前哨でも問題の多いオリンピック、今回も女子マラソンにわが母校卒業生の後輩が・・・明るいニュースを待ちましょう。 MG

・・・・・・ ホームページリニューアルについて・・・・・・

ホームページの1部で少し古いものが其のまま残っている部分がありますが、近日中に少し大々的に、リニューアルすべく準備中ですので、今しばらくお待ちください。

・・・・・・

